

学校番号	12	学校名	茨城県立大子清流高等学校
------	----	-----	--------------

令和7年度道徳教育全体計画

諸法規		校訓		生徒の実態	
・日本国憲法 ・教育基本法 ・教育諸法規 ・学習指導要領		自律 創造 友愛		○自然豊かな環境で育ち、素直で思いやりのある生徒が多い。しかし、一方で自己有用感が低く、自律心が弱い生徒も見受けられる。 ○過疎化・高齢化が進み、生徒数も減少傾向にあるため、狭いコミュニティにとどまりやすく、人間関係形成力が低いことが課題である。	
		学校の教育目標			
		人間尊重の精神を基盤に、社会の変化に主体的に対応できる個性的で創造性や国際性に富む心豊かな人間を育成する。			
保護者の願い		道徳教育重点目標		地域の実態	
当たり前前のことが当たり前ででき、社会人になるための資質・能力を養う教育をして欲しい。		(1) 自律から自立へ …規範意識を高め、自分自身の力で正しく判断し、行動できる。 (2) 自他の個性の受容と尊重 …自己理解と自己受容を深め、お互いの良さを認め合い、高めあうことができる。 (3) 自他の生命の尊重、自然愛護 …自他の生命を尊重し、自然を大切にできる。 (4) 母校愛と地域愛 …母校や郷土への誇りと愛着を深め、その発展に寄与できる。		・過疎化・高齢化が進み、若年層が減少傾向にある。 ・自然が豊かで、特に観光業が盛んである。	
各教科・科目		特別活動		生徒指導	
国語	・心情を豊かにし、言語感覚を磨くことで、道徳的心情や道徳的判断力を養う。 ・言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成する。	ホームルーム活動 ・自己や身の回りの課題について考え、話し合う活動を通して自他を尊重する態度や学校や地域に貢献しようとする意欲を高める。 ・自己の課題について向き合い、向上心を持ってやり遂げる態度を養う。 ・話し合い活動や他者との協働を通して、学校や身の回りの生活をよりよく改善しようとする態度を養う。 ・学校行事や生徒会活動を通して学んだことを振り返り、自ら課題を把握し、解決しようとする態度を養う。		○規範意識を高め、自律的な生活を送れるような指導・支援を行う。 ・校則や、学年・学級など自らが所属する集団のルールの意義を理解し、それについて考える機会を作る。 ・保護者や関係機関との連携を密にし、生徒理解に努める。 ・生徒の特性に応じた教育相談体制の充実を図る。 ○自己有用感を高め、自他の個性を尊重する態度を養う。 ・日々の学習指導や特別活動等の中で生徒同士がコミュニケーションを取り、協力して物事を進めていく機会・場面を作る。	
地歴	古今東西の歴史や地理を学び人間の営みに思いを馳せ、人生観や世界観を確立させる。			○生徒会活動 ・学校生活の充実を図るため、自主的に運営される生徒会活動を通して、協調性や責任感を養い、課題を発見し、解決する力などを高める。	
数学	数学に対する関心を高め、その社会的有用性や数学的思考を身につけさせることにより、道徳的判断力を高める。			○学校行事 ・農林科学科の行事を通して、生命を尊重し、自然を愛護する態度を養う。 ・文化祭やクラスマッチなどにおいて集団における自己の役割を責任を持って果たそうとする態度や、他者を尊重し、協力して物事を成し遂げる態度を育成する。	
理科	自然に対する関心や知識を高め、科学的な自然観を育成する。			公民科	
保健	各種の運動を通して、公正なプレーを尊重したり、相手の選手や審判などを尊敬したりする態度を育成することで、実生活において、決まりを守ることや相手を思いやることなどができるようにする。			公共	
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、道徳性の基盤を培う。	公民科 ・「公共の扉」：「公共的な空間における人間としての在り方」において、功利主義や義務論などの考え方を活用して自己や社会の問題を考える。 ・「青年期と社会参画を考える」単元の中で、青年期の特性やアイデンティティの確立などについて学び、自他の個性を理解し、尊重する態度を育成する。 ・「青年期と社会参画を考える」単元の中で、社会参画とキャリアについて学び、勤労・奉仕の精神や大人としての自覚や責任について考える。 ・「法の意義」を考える単元の中で、身近なルールの意義を考え、それを遵守する態度や他者を尊重して生きる態度を身に付ける。		家庭との連携	
外国語	言語や文化への関心を深めることで視野を広げ、異文化を理解尊重する態度や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。			○保護者と連絡を密にし、生徒理解に努め、生徒の家庭環境や本人・保護者の要望に立脚したきめ細かい指導を行う。 ○「清流だより」やホームページなどを通し、生徒の学校での様子を知らせ保護者と連携をはかる。	
家庭	家族や家庭、社会の意義を考え理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して社会を築いていけるような実践的態度を育てる。			地域社会との連携	
情報	情報技術の習得・活用を通じて、モラルやマナーを考え、情報化社会のものの見方や考え方を養う。	公共 ・対話の中でお互いの意見や感想を述べあう活動を年間の授業を通して実施する。 ・礼儀や規範意識、ルールの意義などについて考える活動を実施する。		○地域企業でのインターンシップなどの活動を通して、望ましい職業観や社会性を育成する。 ○福祉施設での実習などを通して、専門的な技術を習得するとともに弱者や高齢者・障害のある方々に対し、あたたかく接することの重要性を認識させ心豊かな人間を育成する。 ○文化祭などを通じて地域のひととの交流を深め、地域社会の一員であることを気づかせるとともに、将来積極的に地域社会に関わろうとする態度を養う。	
総合的な探究の時間	・将来出会うであろう様々な場面や状況において、より良く生きていけるような内的な力としての道徳的実践力を高められるよう授業の工夫を行う。 ・生徒同士の話し合い活動や地域との交流など他者との交流を充実させる。				
専門	授業や実習を通して高齢者や障がい者等に対してあたたかく接して行くことの重要性を認識させる。				